

# マグネットドアストッパー 施工説明書 兼 取扱説明書

## 施工される方へのお願い

- この説明書は施工上重要な項目が記載されております。施工の際にはよく読み手順通りに正しく施工してください。また、取扱説明書も兼ねておりますので使用後は必ずお施主様にお渡しください。
- 本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。



警告

取付けおよび取扱いを誤った場合に、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。



注意

取付けおよび取扱いを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。



取扱いを誤った場合に、製品の破損などの発生が想定されます。取付け手順の本文中に記載していますので必ずお読みください。



警告

- 下記のような医用電子機器を使用されている方は、操作を行わないでください。各医用電子機器に誤作動をまねくおそれがあります。  
(1)ペースメーカー等の体内埋込型機器 (2)人工心肺等の生命維持用機器 (3)装着型の心電計等



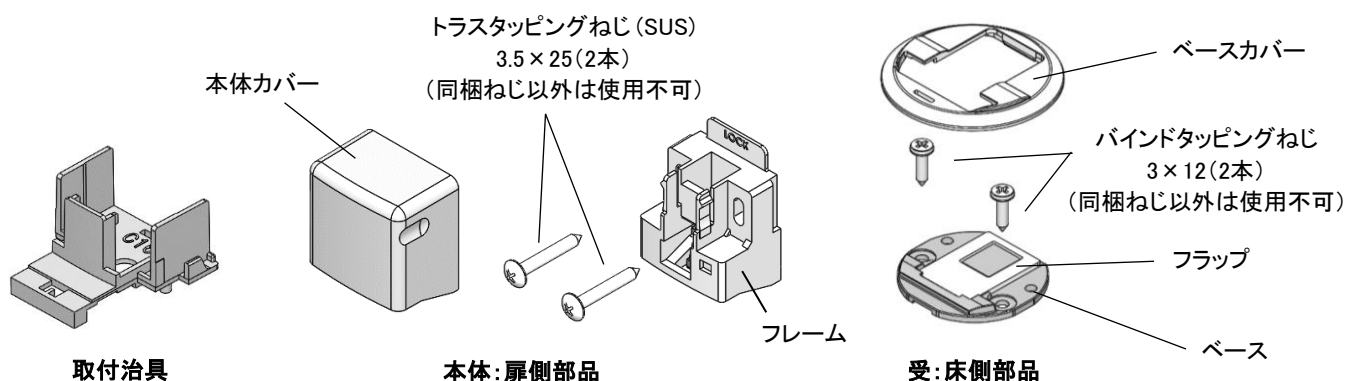
注意

- フラップが立ち上がったままになっている場合は、必ず手で倒してください。思わぬケガをするおそれがあります。
- 扉を開放しておくときは、必ず本体カバーを下げて扉を固定してください。扉が強風で強く閉まり思わぬケガをするおそれがあります。
- 扉が勢いよく開くと、扉がフラップにぶつかり、はね返り、思わぬケガをするおそれがあります。
- 本体や受でお子様が遊ばないようにご注意ください。思わぬケガをするおそれがあります。

## 施工上・取扱い上のお願い

- 製品の個体差により操作力、作動音などがばらつくことがあります。
- 本製品は、木質床材専用です。じゅうたん・クッションフロア等の軟質床材へは取付けできません。
- 本製品取付け前に扉の建て付け調整を必ず行ってください。
- 扉と床の隙間が4~15mmとなるように、扉高さを調整してください。扉と床の隙間が15mmを超えるとストッパーが作動せず、扉が壁などに衝突するおそれがあります。
- フレーム・ベースは取付治具で取付けてください。取付け状態により操作力がばらつくことがあります。
- 床暖房システムを使用している部分では使用しないでください。
- 本製品のねじ締付け時には手動ドライバーもしくはクラッチ付のドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじの空回り、ねじ頭部の破損やつぶれ、ベースの破損の原因となります。
- ストッパーが作動せず、扉が壁などに衝突するおそれがありますので、同梱ねじ以外使用しないでください。
- ロックが掛かった状態で扉本体にもたれかかったり、引張ったりしないでください。ストッパーが破損するおそれがあります。
- 磁気商品(テープ、カード、時計、精密機器等)を本体に近づけないでください。使用できなくなるおそれがあります。
- フラップに磁気を帯びさせないでください。作動不良の原因になります。
- 表面が汚れた場合は、柔らかい布で軽く拭いてください。
- 落ちにくい汚れが表面に付着した場合は、柔らかい布に中性洗剤を含ませて拭き取り、水を含ませた柔らかい布で中性洗剤を完全に拭き取ってから乾いた布で水分を拭き取ってください。
- 中性洗剤以外の洗剤、シンナーなどの溶剤、アルコール、ワックスなど付着した場合は、変色、破損、作動不良の原因になります。
- 受にホコリ・砂がかかった場合は、掃除機などで取り除いてください。作動不良の原因になります。
- 本体にお湯をこぼしたり、暖房機器による熱風等を与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 本体および受に石膏ボード等の粉塵やその他の塵埃等が付着すると、戸当り状態から扉を閉めようとするときの操作力が大きくなる場合があります。この際は、本体および受に付着した粉塵を乾いた布できれいに取り除いてください。特に、受のフラップの四角穴部と本体の下端は入念に取り除いてください。
- 本体が戸当たりする際と戸当たり状態から扉を閉めようとする際に、仮保持機能の作動音が発生することがありますが異常ではありません。

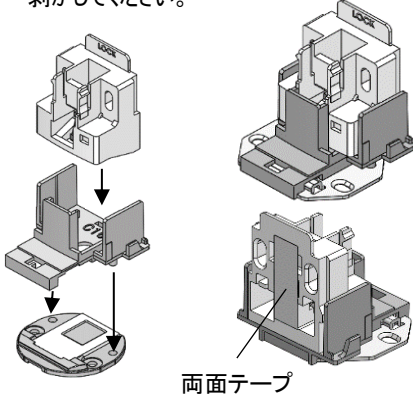
## 部品構成



**取付け手順** ※必ず扉の建て付け調整後に取付けてください。

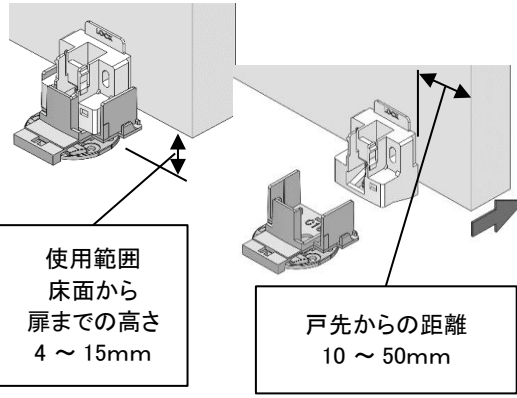
**1 本体・取付治具・受を組み合わせる**

- ① ベースの穴2箇所を取付治具をはめ込んでください。
- ② フレームを取付治具にはめ込んでください。
- ③ フレーム裏面の両面テープの剥離紙を剥がしてください。



**2 組み合わせた部品を取付け位置にセットする**

- ① 取付け位置にセットし、フレームを扉に貼付けてください。
- ② 取付治具、ベースを動かさないように手で固定し、扉を移動させてください。

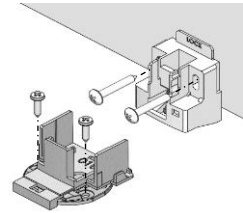


**3 本体と受を固定する**

- ① フレーム・ベース取付け位置に下穴をあけ、付属のねじで固定してください。

⚠ ねじは強く締めすぎると部品が破損するおそれがあります。

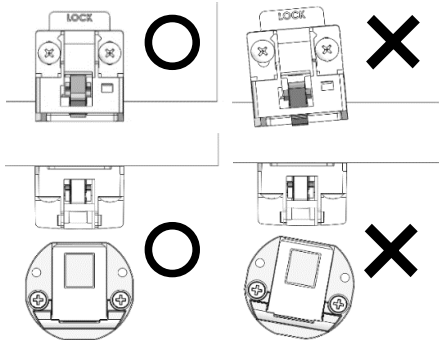
- ② ベース固定後取付治具を取り外してください。



※取付治具は部品の交換時などに使用する可能性がありますので廃棄せずに保管してください。

**4 取付け状態および作動の確認をする**

- ① 取付け状態が正しく取付けられていることを確認してください。

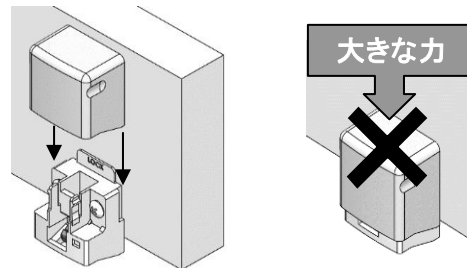


- ② フレームがベースの真上にくるように扉を開き、正常に作動するか確認してください。

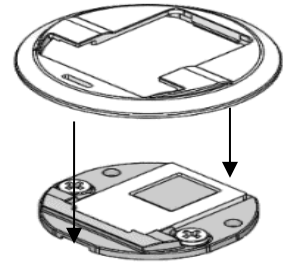
**5 本体カバーとベースカバーをはめ込む**

- ① 必ず[4]の確認後本体カバーを取付けてください。
- ② フレームにカチッと音がするまで本体カバーを上からはめ込んでください。

⚠ 本体カバーへ大きな力をかけないでください。ストッパーが破損するおそれがあります。



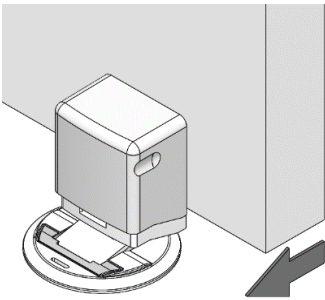
- ③ ベースにカチッと音がするまでベースカバーをはめ込んでください。



**取扱い方法**

**戸当たり状態で仮保持させる場合**

本体(扉)が受の上にくると、フラップが立ち上がり、ストッパーが作動します。戸当たりすると扉が仮保持状態となります。



⚠ 扉の開く速度が速すぎると作動しなかったり、部品が破損するおそれがあります。

**戸当たり状態で扉をロックさせる場合**

■ ロック状態にする時

本体カバーを押し下げると、ロック状態となり扉が開いた状態を維持します。(LOCKの文字が現れます)



⚠ ロック状態のまま扉を開閉しないでください。ストッパーが破損するおそれがあります。

■ ロック状態を解除する時

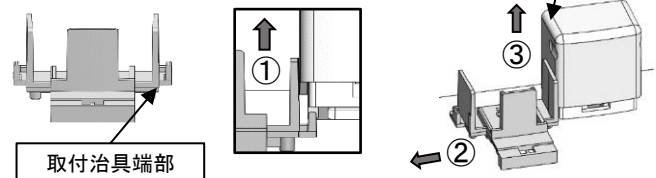
本体カバーを引き上げるとロック状態が解除され、扉を開める方向へ動かします。



**本体カバーとベースカバーの外し方**

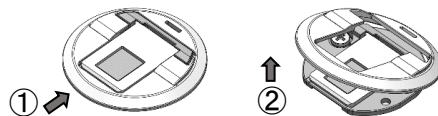
■ 本体カバーを外す必要が生じた場合には下記のようにしてください。

- ① 取付治具端部を下図のように本体カバー一側面下側から引掛けてください。※引掛け部は本体カバー片側のみにあります。
- ② 矢印の方向へ引いて本体カバーの掛かりを外します。
- ③ 本体カバーを持ちながら上へ引き上げてください。



■ ベースカバーを外す必要が生じた場合は下記のようにしてください。

- ① ベースカバーと床の隙間に工具などを差し込みます。
- ② ベースカバーを上方向に持ち上げてください。



⚠ ・工具などで床を傷付けないよう注意してください。  
・矢印以外の箇所から外すと破損するおそれがあります。